

オーストラリア特集2022

海外へ動き出す日本市場
さあ、オーストラリアへ

「グッデイ!」ではじめよう、
オーストラリア

G'day

それは、世界でいちばんハッピーなあいさつ。
そしてそれは、とびっきりの冒険がはじまる合言葉。
さあ、あなたも一緒に、オーストラリアで「グッデイ!」を。

ショートムービー
グッデイ!
「G'day」公開中

シドニー

AUSTRALIA





Interview

オーストラリアの魅力、キャンペーンで広く発信

オーストラリア政府観光局
デレック ベインズ 日本局長

日本オフィスの局長に就任して9月で2年半になります。コロナ禍で積極的な活動ができないなか、日本の旅行業界の皆様とコミュニケーションを取りつつ、今年はやがて始動するプロモーションの準備を進めてきました。

10月20日に「『グッデイ!』ではじめよう、オーストラリア」キャンペーンをローンチしましたが、同じ時期に日本の水際対策が緩和されたのはグッドタイミングでし

た。CGIアニメのキャラクターを用いたキャンペーンは99%ポジティブに受け止められ、全世界的にも好意的に評価されています。オーストラリア政府観光局ではルビーとルイのキャラクターを長く活用していきますので、旅行業界の皆様も商品造成や販促にぜひご活用ください。

近年、オーストラリアでは日本人気がとても高く、この秋から冬にかけても多くのオーストラリア人が日本を訪れています。

日本市場は動き始めたばかりですが、エアラインの便数が増え、路線が黒字になっていけば、少しずつ運賃も落ち着いて双方向の需要バランスも是正されていくものと期待します。そのためにも、新キャンペーンを機にオーストラリアでのかけがえない旅行体験の魅力を周知し、日本マーケットの需要喚起につなげていきたいと考えています。

General remarks

海外へ動き出す日本市場

さあ、オーストラリアへ!

今年10月、日本でもいよいよ海外旅行が動き出し、ほぼ同時にオーストラリア政府観光局が2016年以来となるグローバルキャンペーンを始動した。日豪間の航空路線も少しずつ回復してきており、この追い風は待ちに待った好機だ。今こそ市場の目をオーストラリアに引き寄せたい。

2023年6月までに6割回復へ

3年に及ぶコロナ禍で、大きなダメージを受けた海外旅行。日本より早く渡航規制を緩和したオーストラリアでも、今年1~8月のオーストラリアへの渡航者数は対2019年比でわずか20%だったが、8月だけの数字を見ると44%まで回復している。国別で見ると日本は6番目で、渡航目的ではビジネスをはじめ、学生やワーキングホリデーの需要が戻ってきている。

オーストラリアでは、今年2月よりコロナ禍における渡航規制を完全に撤廃。レジャーでの入国もこれまで通りで、マスク着用義務はなく、またコロナの陽性反応が出ても無症状なら隔離は不要となった。日本の外務省による新型コロナウイルスの感染症危険情報もレベル1に引き下げられており、入国に関しては完全にコロナ以前に戻った状態だ。



日本では海外旅行の再開が遅れたため、レジャーの中でもパッケージツアーにおける需要が戻るのはまだ先になりそう。オーストラリア政府観光局のデレック・ベインズ日本局長は、「11月頃にはエアラインのキャパシティも増え、パッケージ商品も増えてくるのでは」と予測する。2023年に向けては、「会計年度末の6月までにオーストラリアへの渡航者数を対2019年比で60%まで戻したい」と目標を語った。

なお、オーストラリアへの入国に際しては、以前と同様に入国ビザETA (Electronic Travel Authority: 電子渡航許可) が必

要。アプリをダウンロードし、スマホで簡単に取得できるようになっている。

ETAについて

ETAS (Electronic Travel Authority System) を通じてオーストラリア移民局に登録し、ETAと呼ばれる電子査証が発行される仕組み。申請から発給までオンラインで完結する電子ビザとなっている。

ETAポイント

- 申請時にはパスポート、電子メールアドレス、クレジットカードを用意
- 観光、知人・親族訪問、商用いずれの目的でも取得が必要
- パスポートの残存期間が1年以上あれば、取得日から1年間有効で何回でも入国が可能。1回の最大滞在日数は3カ月
- オンライン申請手数料としてA\$20 (約1600円)が必要

※ETAに関する詳細および最新情報は在日オーストラリア大使館のウェブサイトを確認
<https://japan.embassy.gov.au>

全世界で新キャンペーン始動

オーストラリア政府観光局は、10月20日に6年ぶりとなるグローバルキャンペーン「『グッデイ!』ではじめよう、オーストラリア」をスタートした。同キャンペーンはオーストラリアの魅力の再認識を目的に、CGIアニメのキャラクターを起用したオリジナルショートムービーなどを制作するという新しい手法で展開。すでに日本を含む多くの国で好意的に受け入れられ、SNSの反応も良好だ。

ショートムービーの「G'day」（グッデイ）は、カンガルーのルビーとユニコーンのルイがオーストラリアのアイコン的な観光名所を探索し、オージー流の温かいホスピタリティーを発見していく旅を描いたもの。オーストラリアの魅力を分かりやすく紹介しており、映画「グレイテスト・ショーマン」で知られるオーストラリア人のマイケル・ 그레이シーが監督を務めた。日本語吹き替え版では、俳優・モデルで本キャンペーンのアンバサダーを務める高橋マアリージュンさんがルビーを、声優の梶裕貴さんがルイの声を担当し、ストーリーを盛り上げている。



キャンペーン発表会に登場した高橋マアリージュンさん（左）と梶裕貴さん（右）



旅行会社との連携ツールも提供

オーストラリア政府観光局では、10月20日にショートムービー「G'day」を世界同時公開するとともに、日本ではプレミアム試写会を開催した。コンシューマー向けには、キャンペーンと連動したミニ番組「G'day オーストラリア」（毎週金曜日22:54~23:00）をTBSテレビ（関東ローカル）にて放映中。オーストラリアの人気都市や自然、文化を紹介する本番組では、俳優の大森南朋さんをナレーターに

迎え、2023年3月末まで全25回放送する予定となっている。

また、新キャンペーンはコンシューマー向けイベントの実施、ラジオやデジタル、SNS等のチャンネルを使ったプロモーション活動も展開。旅行会社とも連携を図っており、商品作成や販促に活用できるイメージ画像やロゴなども用意しているので、積極的に活用したい。「2023年初頭にはキャンペーンの第2段を展開する」（ペインズ局長）というから、そのタイミングで販促にも一層弾みがつきそうだ。

オーストラリア政府観光局
ショートムービー「G'day」の
視聴先はこちら



日本語版
「G'day」メイキング動画の
視聴先はこちら



▼ 旅行会社が活用できるキャンペーン素材のダウンロードはこちら

<https://resources.australia.com/site/welcome.me>

※登録後、「come and say g'day」を入力・検索すると、素材一覧にアクセスできる
※使用の際はパートナーシップツールキット（ガイドライン）を参照のこと



AUSSIE
SPECIALIST
PROGRAM

オージー・スペシャリスト・プログラム（ASP）

新キャンペーンと連動したトレーニングコースも登場！

<https://www.aussiespecialist.com/ja-jp>



認定後も最新コンテンツで オーストラリアの今が分かる

「オージー・スペシャリスト・プログラム（ASP）」は、オーストラリア政府観光局が開発した業界向けのオンライン学習プログラム。認定を取得した後も定期的にオーストラリアの新しい情報をインプットできるコンテンツを毎月更新している。2022年10月より開始した新ブランドキャンペーンに伴って追加されたトレーニングコースでは、オリジナルショートムービー「G'day」で主人公ルビーとルイが

旅した各デスティネーションを最新のプロダクトと共に紹介。すでに多くのプログラムメンバーが受講しており、効果的なフィードバックを得ている。

スペシャリスト認定者向けに 対面イベントやファムも計画中！

スペシャリスト認定者のみを対象とした対面イベントや研修旅行も続々と計画されている。12月には東京と大阪にてディナー懇親会を予定しているほか、来年にかけては現地研修旅行

も準備が進められている。これらの情報はすべてオージー・スペシャリスト・ニューズレターにて配信されるので、ニューズレター受け取りの登録も忘れずにおきたい。



New Hotels in 2022-2024

2021年12月開業 タスマニア州 ● ホバート

全152室のスイートルームホテル ザ・タスマン

マリオット・インターナショナルの「ラグジュアリーコレクション」ブランドとしてオープン。歴史的建造物を改装し、元の建築素材を生かしながら、現代的な機能を備えたラグジュアリーホテルとして生まれ変わった。



The Tasman

<https://www.marriott.com/en-us/hotels/hbale-the-tasman-a-luxury-collection-hotel-hobart/overview>

2022年4月開業 ノーザンテリトリー ● ダーウィン

トップエンドの大自然を心行くまで堪能 フィニス・リバー・ロッジ



ダーウィンの南西へ車で約90分、全6室がスイートルームの高級リゾート。トップエンドの雄大な自然に囲まれた環境で、ガイド付きの4WDドライブやハイキング、フィニス川を疾走するエアボートなどを体験できる。

Finniss River Lodge

<https://finnissriverlodge.com.au>

2022年6月23日開業 クイーンズランド州 ● ゴールドコースト

目の前にビーチを望む高層ホテル ザ・ランガム・ゴールドコースト

サーファーズパラダイスのビーチフロントに、また1つ画期的な高級ホテルが登場した。3つの斬新なタワーの中央に位置し、169の客室と170のレジデンス、7つのレストラン&バー、プール、スパなどがそろう。



The Langham Gold Coast

<https://www.langhamhotels.com/en/the-langham/gold-coast/>

2022年11月末開業予定 ビクトリア州 ● メルボルン

暮らすような旅の拠点に最適

ベリウ・クイーンビクトリアマーケット



歴史あるクイーンビクトリアマーケットに隣接するアパートメントスタイルのホテル。110のさまざまなタイプの客室は、全室に家具一式とキッチンを備え、コーヒーマシンや高速インターネットも完備されている。

Veriu Queen Victoria Market

<https://veriu.com.au/hotels/veriu-queen-victoria-market/>

2022年中に改装予定 ノーザンテリトリー ● ダーウィン

2500万ドルを投資する再開発

ノホテル&メルキュール・ダーウィン・エアポート・リゾート

ダーウィン国際空港に隣接する2つのホテルを1つに統合する大規模な改装が進行中。すでに6棟のブルヴィラが完成し、2022年中にスイートルームやラグーンプールなどが終了する。すべての完成は2023年を予定。



Novotel & Mercure
Darwin Airport Resort

<https://www.darwinairporthotels.com.au>

2023年3月開業予定 ニュー・サウス・ウェールズ州 ● シドニー

クラシックとモダンが融合する高級ホテル

カペラ・シドニー

モダンで現代的なインテリアと壮大な歴史的建造物が見事に調和しているラグジュアリーなホテル。8階建て、192室の客室とスイート、自慢のレストランやプール、スパなどを備えている。

Capella Sydney

<https://capellahotels.com/en/capella-sydney>



2023年3月開業予定 ビクトリア州 ● メルボルン

高層ホテルで過ごす上質な休日

リッツカールトン・メルボルン



80階建てビルの高層階に開業予定の高級ホテル。最上階には街を一望できる「スカイロビー」やレストランがあり、全257室の客室はラグジュアリーな滞在を約束してくれる。サザンクロス駅に隣接する好立地も魅力だ。

Ritz Carlton Hotel Melbourne

<https://www.ritzcarlton.com/en/hotels/australia/melbourne>

2023年10月開業予定 ニュー・サウス・ウェールズ州 ● シドニー

新たなランドマークホテルに

W シドニー

ダーリングハーバーを一望できる複合施設「The Ribbon」にオープン予定。独特な曲線とガラスのファサードが印象的な建物に、585の客室やスイート、ルーフトップバー、インフィニティプールなどがデザインされる。

W Sydney

<https://www.marriott.com/en-us/hotels/sydw-h-w-sydney/overview/>



2023年後半開業予定 南オーストラリア州 ● カンガルー島

大規模な改装でプレミアムスイートを新設

サザン・オーシャン・ロッジ



改装前のロッジ全景

2020年の山火事から回復したカンガルー島では、雄大な自然の中に佇む全25室のラグジュアリーロッジがリニューアルオープンする。改装の目玉は640㎡の新しいプレミアムスイートで、プール付きのテラスを備える。

Southern Ocean Lodge

<https://southernoceanlodge.com.au>

2023年以降開業予定 西オーストラリア州 ● パース

パースに初上陸のホテルブランド登場

ラディソン・レッド・ウエスト・パース

オーストラリア初となるラディソン・レッド・ブランドのホテル。ウェリントン通りとコリン通りの角に位置し、全129の客室、レストラン、プール、ルーフトップバー、多目的ルーム、イベントスペースを備える。

Radisson Red West Perth



パースのスカイライン

2023年以降開業予定 クイーンズランド州 ● ブリスベン

リバーサイド再開発の象徴的ホテル

ドーセット・ブリスベン



クイーンズワーフ

ブリスベンのリバーフロント開発エリア「クイーンズワーフ」に建設中。387室の客室とスイートを擁する高級ホテルで、エリア内のカジノや映画館、50以上のレストランやバー、エンターテインメント施設などにつながる。

Dorsett Brisbane

<https://www.dorsetthotels.com/dorsett-brisbane/index.html>

2024年5月開業予定 西オーストラリア州 ● フリーマントル

需要増える滞在型ホテルで快適ステイ

アディナ・アパートメントホテル・フリーマントル

Toga Far East (TFE) Hotels 傘下のアディナ・アパートメント・ホテルズが、フリーマントルにも進出する。キッチンや洗濯機などのある快適な142の客室、屋上プールやジム、カフェ、バーなどを備える予定。



フリーマントルの街並み

Adina Apartment Hotel Fremantle Perth

Events in 2023

2022年10月1日～3月31日 ノーザンテリトリー ● トップエンド

8回目を迎えるリッチな釣りイベント ミリオンダラーフィッシュ シーズン8

雨季（10～3月）のトップエンドはパラマンディの遡上期で、最高のフィッシングチャンス。ダーウィンやカカドゥなど広範囲で行われる釣り大会は第8シーズンを迎え、大物を狙えば100万ドルの賞金がもらえる。

Million Dollar Fish
<https://milliondollarfish.com.au>



1月16～29日 ビクトリア州 ● メルボルン

日本でも話題の国際テニス試合 全豪オープンテニス



毎年1月に開催されるテニスの4大国際大会（グランドスラム）の1つ。会場となるメルボルンパークには近年、レストランやアクティビティエリアなどが増設され、総合エンタメ施設としても人気を博している。

Australian Open tennis
<https://ausopen.com>

2月17日～3月19日 南オーストラリア州 ● アデレード

1カ月におよぶ芸術の祭典 アデレード・FRINGE

南半球最大の芸術祭。演劇やライブをはじめ、コメディショーやサーカス、視覚芸術などさまざまなイベントが催される。別名「ピープルス・フェスティバル」と言われ、ユニークで風変わりな芸術に触れられるのが魅力。

Adelaide Fringe
<https://adelaidefringe.com.au>



2月17～19日/24～26日 タスマニア州 ● ロンセストンとホバート

週末を盛り上げるサマーフェスティバル MONA FOMA



音楽、アート、カルチャーがテーマの祭典で、17～19日がロンセストン、24～26日がホバートで開催。MONA (Museum of Old and New Art) とのコラボイベントで、創造性に満ちた活気あふれる催しとなっている。

MONA FOMA
<https://monafoma.net.au>

3月3～20日 西オーストラリア州 ● パース

インド洋を望むビーチで彫刻鑑賞 スカルプチャー・バイ・ザ・シー コテスロー

パースで最も人気のあるコテスロー・ビーチで行われる彫刻の屋外展覧会。白砂のビーチや防波堤、芝生エリアなどに世界各地のアーティストによる独創性豊かな彫刻作品が展示され、誰でも無料で見学することができる。

Sculpture by the Sea, Cottesloe
<https://sculpturebythesea.com/cottesloe>



3月30日～4月2日 ビクトリア州 ● メルボルン

シーズン前半を占う重要レース オーストラリアF1グランプリ

アルバート・パーク・サーキットで行われる自動車レース。コースとなる公園内の公道が大幅に改善され、ますますエキサイティングなレースが楽しめる。市内からのアクセスもよく、観戦ツアーも組みやすい。

Australian F1 Grand Prix <https://www.grandprix.com.au>



4月7～16日 ノーザンテリトリー ● アリス・スプリングス

光に包まれる芸術の屋外イベント パルトジマ ～光の祭典～



世界で唯一のアボリジニの光の祭典。芸術、文化、音楽などの分野を網羅し、大規模な彫刻作品の展示や映画上映、講演会、著名人によるパフォーマンスなどが行われる。西マクドネル山脈のライトアップも必見だ。

Parrtjima <https://parrtjimaaustralia.com.au>

5月26日～6月17日 ニュー・サウス・ウェールズ州 ● シドニー

街中がライトアップされる光の祭典 ビビッド・シドニー2023

2023年で13回目を迎える南半球最大級の「光と音とアイデアの祭典」。歴史ある建物に投影されるプロジェクション・マッピングやアーティストによる光のアート展示などが楽しめるほか、2023年は「食」もテーマの1つとなる。

Vivid Sydney 2023 <https://www.vividsydney.com>



7月1日～2日 クイーンズランド州 ● ゴールドコースト

年齢を問わず参加できるビーチマラソン ゴールドコーストマラソン

43回目を数える歴史あるマラソン大会で、毎年約3万人が参加する。海沿いのゴールドコーストハイウェイは高低差が少なくフラットなコース。フル、ハーフに加え、10km、5km、子供向けの4km/2kmなどの種目がある。

Gold Coast Marathon <http://gcm.jp>



9月 西オーストラリア州 ● パース

40万人が訪れる歴史ある花の祭典 キングスパーク・ワイルドフラワー・フェスティバル



例年9月の1か月に渡って行われるワイルドフラワーの饗宴。州内の各地から集めた約3000種類の花々がエリアごとに展示され、人気のガイド付きウォークをはじめ、さまざまなアクティビティやイベントが開催される。

Everlasting Kings Park Festival
<https://www.bgpa.wa.gov.au/kings-park/events/festival>

9月8～10日 クイーンズランド州 ● ポートダグラス

サイクリストが集うファンライドイベント グラン・フォンド・フェスティバル



2回目となるサイクリングのイベント。ポートダグラスとパームコーブ間の海沿いを走る爽快なレースで、なだらかな道のりが特徴だ。136・100kmの長距離に加え、60・48・40kmなどのコースもあり参加しやすい。

Gran Fondo Festival
<https://portdouglasgranfondo.com.au>

10月15～22日 ニュー・サウス・ウェールズ州 ● シドニー

米テキサス発のイベントがシドニーへ

サウス・バイ・サウスウエスト・シドニー

アメリカのオースティンで始まった複合イベントで、この度初めて北米以外で開催される。起源となった音楽フェスをはじめ、映画、ゲーム、教育、文化などさまざまな業界の最先端テクノロジーを垣間見ることができる。

SxSW Sydney 2023
<https://sxswsydney.com>



世界各地で観光が再開するなか、クイーンズランド州も日本市場に対するアプローチを本格的に始動する。クイーンズランド州政府観光局は、再開に先駆けて市場調査を実施し日本人旅行者の意識変化を分析。そのうえで「自然を旅する、わたしを旅する。クイーンズランド」のキャッチコピーによりクイーンズランド州の新たなブランドコンセプトを表現。旅行業界と連携して観光再開のスタートダッシュを目指す。



観光再開と日本人旅行者誘致へ向けて 新ブランドコンセプト導入

「自然を旅する、わたしを旅する。クイーンズランド」

コロナ後の日本市場が求める旅を実現 癒しや元気を取り戻す機会を提供

日本人旅行者の誘致再開にあたり来日したクイーンズランド州政府観光局 (TEQ) のマーケティング部門責任者、マイケル・ブラナーグループ・エグゼクティブ・マーケティングは、新たなブランドコンセプトである「A Beautiful Way To Be」が、コロナ禍から解放された人々の旅への思いに応えるクイーンズランド州を前面に打ち出した、世界共通のコンセプトであることを説明。そのうえで日



本市場に対してはさらなる細かい分析を加え「自然を旅する、わたしを旅する。クイーンズランド」をキャッチコピーとして採用すると発表した。

コロナ禍で海外渡航が規制されていた約3年間に変化した消費者の旅行ニーズを把握するために5月に実施した消費者調査では、日本人旅行者がコロナ禍で失われた旅の機会を取り戻したいと考え、旅に出て癒されることを望んでいると分析。ブラナー氏は「日本人の旅行に対する意識が、刺激、発見、つながり、癒しを感じ、元気を取り戻したいという傾向が強くなっている」と解説した。

また日本とは対照的なクイーンズランド州の自然は旅行者に癒しを与えられるとの調査結果も出たとする。これらの分析をふまえて日本市場向けに考案されたキャッチコピーが「自然を旅する、わたしを旅する。クイーンズランド」だったわけだ。

TEQでは「クイーンズランド州が持つ多様性に富んだ観光資源は、コロナ禍を経た人々が元気になって新たな気持ちになれるための力を持ち合わせている」(ブラナー氏)とのメッセージを日本市場に明確に伝えることで、アフターコロナの旅行需要を取り込んでいきたい考えだ。

またブラナー氏はクイーンズランド州と日本人旅行者との相性が良いことも強みになると期待。「クイーンズランド州の観光資源は、多様なアクティビティ、ここでしか見られない、出来ない、ユニークな体験だ。また直行便があり飛行時間も長すぎず、日本との時差がほとんどないなど、日本人にアピールできる要素も揃っている。クイーンズランド州を訪れる世界の皆様に約束できることは、ここでは多様で豊かな驚きに満ちた場所とのつながりを持っているということ。そして元気になって新たな気持ちで帰ってもらえる場所、それがクイーンズランド州だ」と強調した。

旅行業界向けワークショップを開催

「リコネクティング・クイーンズランド・ジャパン」に18社が来日

TEQは日本の旅行業界向け観光誘致活動の本格的な再開に向けた第1弾の取り組みとして、大阪(10月3日)と東京(10月4日)で、クイーンズランド州観光のワークショップ「リコネクティング・クイーンズランド・ジャパン」を開催した。

コロナ禍前までは同種のワークショップを「クイーンズランド・オン・ツアー・ジャパン」として毎年開催していたが、現地の事業者が来日して参加する形での開催は19年開催を最後に途絶えており、今回は3年ぶりの開催となった。

「リコネクティング・クイーンズランド・ジャパン」に参加したクイーンズランド州からの来日ミッションは、ホテル、観光施設、ツ

アーオペレーター、アクティビティ事業者、観光局など18社で、日本市場に関心が高い事業者ばかりが集合した。

ワークショップ開催に先立ち9月30日には、東京都内のホテルに旅行業界のキーパートナーを招いて来日事業者とのディナーファンクションを開催して交流。3日の大阪でのワークショップでも昼食会を催し親睦を深めた。また4日の東京ではメディアも招いて昼食会を開催し、クイーンズランド州の魅力のアピールした。

Reconnecting Queensland Japan

	Company
1	ケアンズ観光局 Tourism Tropical North Queensland
2	エントラーダ・トラベル・グループ Entrada Travel Group
3	ダンディーズ・レストラン Dundee's Restaurant
4	ハートルズ・クロコダイル・アドベンチャーズ Hartley's Crocodile Adventures
5	CaPTA グループ CaPTA Group
6	シャングリラ・ザ・マリーナ・ケアンズ Shangri-La The Marina, Cairns
7	スカイレール・レインフォレスト・ケーブルウェイ Skyrail Rainforest Cableway
8	ホット・エア・バルーンケアンズ&ゴールドコースト Hot Air Balloon Cairns and Gold Coast
9	クイックシルバー・グループ Quicksilver Group
10	クリスタルブルック・コレクション・ケアンズ Crystalbrook Collection Cairns
11	ハミルトン・アイランド Hamilton Island
12	ブリスベン経済開発局 Brisbane Economic Development Agency
13	タンガルーマ・アイランド・リゾート Tangalooma Island Resort
14	ゴールドコースト観光局 Destination Gold Coast
15	ノボテル・サーファーズパラダイス Novotel Surfers Paradise
16	ザ・ツアー・コレクティブ The Tour Collective
17	ビレッジ・ロードショー・テーマパーク Village Roadshow Theme Parks
18	イベント・マネジメント・クイーンズランド Events Management Queensland (Gold Coast Marathon)

エリア・プロダクト最新情報

Area product latest information

Brisbane ブリスベン

複合型リゾート

「クイーンズワーフ・ブリスベン」が2023年開業



クイーンズランド州の州都ブリスベンでは、2032年のオリンピック・パラリンピック開催を控え、ブリスベンを世界の観光とエンターテインメントの拠点に押し上げようという各種プロジェクトが進行。地下鉄整備などのプロジェクトも進められている。

なかでも最大規模のプロジェクトが2023年半ばの開業を目指す「クイーンズワ

ーフ・ブリスベン Queen's Wharf Brisbane」だ。

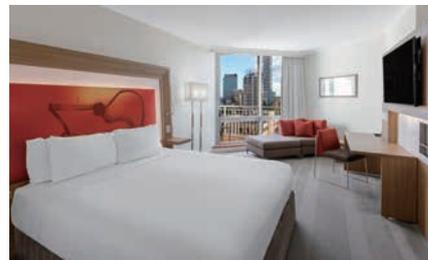
4軒の高級ホテル、1棟のレジデンス、約50軒のレストラン&バー、カジノ、各種商業施設で構成される複合リゾートで、ブリスベン川のリバーフロントで12ヘクタールに及ぶ大規模再開発が進められており、総工費は36億豪ドルに達する。

リゾート内には高級ホテルが進出

「クイーンズワーフ・ブリスベン」に進出するホテルはザ・リッツカールトン・ブリスベン（200室）、ドーセット・ブリスベン（387室）、ザ・スターグランド（340室）、オーストラリア初の6ツ星となるローズウッド・ブリスベン（100室）となる予定で、レジデンス棟の住居は日本でも販売されている。

市中心部にも新ホテル

「アモラ・ホテル・ブリスベン」



ブリスベンの中心街では4.5星の「アモラ・ホテル・ブリスベン Amora Hotel Brisbane」（296室）が開業済みだ。セントラル駅近くの立地で、人気のハワード・スミス・ワーフなどのダイニングやショッピングのエリアへも徒歩圏内で、ビジネス客にも観光客にも理想的な滞在を提供できるのが特徴だ。宴会場は280名まで収容可能。

Gold Coast ゴールドコースト

ゴールドコースト空港に新ターミナルがオープン

ゴールドコースト空港は2億6000万豪ドル（約250億円）を投じてターミナル拡張が進められ、このほど国内線と国際線が利用する3階建て総面積3万㎡の新ターミナルの供用を開始した。ターミナルの規模はこれまでの2倍になり、最大19機が使用できる大型機用スペースを確保し、6つのゲートが用意されている。このほかショップやカフェ、出発ラウンジ、VIPルームなどが設けられている。

現在では日本からゴールドコーストへの直行便の搭乗客も新ターミナルを使用。



ドーセット・ゴールドコースト

ゴールドコースト空港から30分、ブロードビーチの中心部に位置しクワビーチまで700m、パシフィック・フェア・ショッピングセンターまで徒歩9分、コンベンション&エキジビションセンター、カジノが併設されているザ・スターに隣接という好立地が「ドーセット・ゴールドコースト Dorsett Gold Coast」の特徴の一つ。

313室の客室からは美しい運河の街並みと緑あふれるヒンターランドの景観を望むことができる。また、館内にあるおしゃれなプールからはブロードビーチが一望でき、リゾート気分を味わえる。



Cairns ケアンズ

「エスプラネード・ダイニングエリア」

新たな観光スポットへの期待

ケアンズを代表する観光エリア、エスプラネード通りの再開発計画の一環として進められてきた「エスプラネード・ダイニングエリア Esplanade Dining Area」が昨年6月にオープンした。再開発計画は、車の騒音や排気ガス、車道沿いの狭いテラス・スペースといった問題を解消する目的で立案されたもの。新エリアでは、最も車の通りが多かった区間の路上駐車スペースを廃止し、海に面したレストランのテラス席用スペースを拡張した。

また再開発エリア内にあるナイトマーケットのフードコートも、車を気にせずよりリラックスして楽しめる場所となった。



ケアンズ最新の5ツ星ホテル

「クリスタルブルック・フリン」

「エスプラネード・ダイニングエリア」にもほど近い場所に、ケアンズ最新の5ツ星ホテルとして2020年11月グランドオープンした高級ホテルが「クリスタルブルック・フリン Crystalbrook Flynn」。クイーンズランド州を中心に7ホテルを展開するクリスタルブルック・コレクションの一つで、単なる高級ホテルの枠を超えたレスポンスフル・ラグジュアリーを目指しているのが特徴。

ホテル運営はSDGsを意識し環境配慮を徹底させており、果物などの食材をケアンズから3時間以内の範囲で調達するなど地産地消の取り組みを徹底。また客室のキーカードには再生木材を使い、客室内には館内の案内など紙のものを使わず全てiPadを利用、プラスチック製ペットボトルやストロー、アメニティ用ボトルも使わないなど、脱炭素化への取り組みも進めている。





ニュー・サウス・ウェールズ州では1年を通じ、各地域で個性のかつ華やかなビッグイベントが目白押し。なかでも州都シドニーはオーストラリアを代表するシンボリックな建物を舞台に大がかりなイベントが行われ、旅行者でも気軽に参加することが可能だ。



©Destination NSW

夕陽に染まるシドニー・ハーバー

各地で開催の多彩なイベントが旅のモチベーションに

ニュー・サウス・ウェールズ州、イベントの魅力

Sydney シドニー・マラソン

アボット・ワールド・マラソン・メジャーズの候補に

2023年は9月17日に開催。フルマラソンやハーフマラソンに加え、10kmのブリッジ・ラン、3.5kmのファミリー・ランがあり、市民はもちろん誰でも気軽に参加可能だ。シドニー・マラソンの魅力は、なんといっても交通規制したシドニー・ハーバー・ブリッジを走れることで、どの種目に参加しても橋を渡ることができる。なおシドニー・マラソンは、ベルリンやロンドン、東京などが加盟するアボット・ワールド・マラソン・メジャーズの正式候補に選ばれており、2025年の承認を目指している。



©Destination NSW

ゴールはどの種目もシドニー・オペラ・ハウスだ

Sydney Marathon

<https://www.sydney-marathon.jp>

Sydney ハンダ・オペラ・オン・シドニー・ハーバー

シドニーの夜景をバックに野外オペラ体験を

シドニー湾を望む海辺で上演される野外オペラ。水上に張り出すように設置された舞台は、2023年に50周年を迎えるシドニー・オペラ・ハウスやシドニー・ハーバー・ブリッジを背景に、頭上には星空が広がる贅沢な設定が自慢だ。2012年から開催しており、これまでカルメン、アイダ、ウエストサイド物語など日本人にも馴染み深い演目が上演されている。2023年は3月24日から4月23日まで「マダム・バタフライ(蝶々夫人)」を上演予定。観劇前に食事やカクテルを楽しむ時間も確保しておきたい。



©Hamilton Lund

2015年に上演のアイダの舞台

Handa Opera on Sydney Harbour

<https://www.sydneyoperahouse.com/events/whats-on/opera-australia/2023/madama-butterfly-on-sydney-harbour.html>

Sydney シドニー・ワールドプライド 2023

シドニー・マルディグラと同時開催でより盛大に

数年に一度、各国持ち回りで開催されるワールドプライドが、2023年2月17日から3月5日までシドニーで行われる。これは世界最大のグローバルLGBTQIA+セレブレーションで、南半球およびアジア太平洋地域で開催されるのは初めて。毎年同時期に実施されるシドニー・ゲイ&レズビアン・マルディグラの45周年と併せ、2023年2月25日にオックスフォード・ストリートで行われるマルディグラ・パレードは、何十万人が参加する盛大なものとなる見込みだ。日本ではお目にかかれないパレードをぜひ見に行きたい。



©Anne Sudera

インパクト大の異文化体験を

Sydney Worldpride 2023

<https://sydneyworldpride.com>

Grafton グラフトン・ジャカランダ・フェスティバル

まるで紫の桜、ジャカランダを見に行こう!

オーストラリアに春の訪れを告げるのは、ジャカランダの花。州北部の街、グラフトンでは、毎年10~11月にかけて街の至るところにジャカランダの木々が咲き乱れ、フラワーフェスティバルが開催される。これは約90年の歴史あるイベントで、期間中はパレードやマーケット、ライブパフォーマンス、花火などさまざまな催しを実施。街全体が紫色に染まるのも見どころで、グラフトンを訪れるならぜひこの時期を選びたい。



©Destination NSW

フォトジェニックなジャカランダの花

Grafton Jacaranda Festival

<https://www.jacarandafestival.com>

シドニーから数時間でアクセスできるニュー・サウス・ウェールズ州のリージョン（地方）では、豊かな森や美しい海を舞台にさまざまなアクティビティを体験することができる。ダイナミックなオーストラリアの魅力を体感する、そんな旅をリージョンで叶えよう。



奇岩群スリー・シスターズの雄姿

©Destination NSW

大自然の懷で エキサイティングなアクティブ体験を ニュー・サウス・ウェールズ州、リージョンの魅力

Blue Mountains シーニック・ワールド

アトラクションで神秘の森にアプローチ

広大なユーカリの森が創り出す世界遺産、ブルー・マウンテンズは、シドニーから西へ車でわずか90分。有名な奇岩群のスリー・シスターズやジャミソン溪谷を観光するなら、シーニック・ワールドのアトラクションが最適だ。急勾配を下るレイルウェイやケーブルカー、上空270mを空中散歩できるスカイウェイなどがあり、まるで大自然に抱かれたテーマパークのよう。木々が生い茂る森に整備された遊歩道を探索すれば、太古の森の生命を肌で感じるができるだろう。ホテルに宿泊して夜は星空観察するのもおすすめだ。



©Destination NSW

シーニック・ワールドのスカイウェイ

Scenic World
<https://scenicworld.com.au>

Jervis Bay ディスカバー・ジャービス・ベイ

クルーズで野生のイルカやクジラをウォッチ!

シドニーの南、車で約3時間のジャービス・ベイは、サウス・コーストの始まりの街。透明な海と白い砂浜の美しさは世界的にもよく知られ、マリンスポーツが盛んだ。このエリアでさまざまなアクティビティやツアーを催行しているディスカバー・ジャービス・ベイでは、特にドルフィン・ウォッチング・クルーズが人気。約90分のクルーズでは、常時100~120頭が生息しているというイルカに遭遇できるほか、ペンギンやアザラシに会うこともできる。5~11月はホエール・ウォッチング・クルーズもおすすめだ。



©Discover Jervis Bay

高確率で出会うことができるイルカたち

Discover Jervis Bay
<https://www.discoverjervisbay.com.au>

Newcastle スカイダイブ・オーストラリア

アドレナリン全開で空からダイブ!

シドニーの北、約150kmに位置する州第2の都市ニューカッスル。美しいビーチや港がある水辺の街で、ワイン産地ハンター・バレーへのゲートウェイとしても知られている。この町でエキサイティングなアクティビティといえば、スカイダイブだ。地上 1万5,000フィートから飛び出せば、時速約200kmでおよそ60秒落下。その後はパラシュートで5~7分間の浮遊体験が楽しめる。スカイダイブ・オーストラリアでは、初心者向けにインストラクターと一緒にダイブするタンデムスカイダイブも用意している。



©Skydive Australia

ビギナーはタンデムスカイダイブで

Skydive Australia
<https://www.skydive.com.au/locations/sydney-newcastle>

Wollongong シンビオ・ワイルドライフ・パーク

固有の動物たちと触れ合える動物園

シドニーの南に位置する海沿いの街ウーロンゴンへは、景観が美しいグランド・パシフィック・ドライブを車で走るのがおすすめ。ここでは、1975年に開園した歴史ある動物園、シンビオ・ワイルドライフ・パークを訪れたい。約6万5000㎡の敷地には、チーター、ワオキツネザル、レッサーパンダ、ミーアキャットなどが自然に近い形で保護されている。コアラと一緒に自撮りをしたり、カンガルーの群れと触れ合ったり、オーストラリアらしい動物体験ができるほか、動物ごとに舞台裏ツアーが催行されていて興味深い。



©Symbio Wildlife Park

放し飼いのカンガルーと触れ合いを

Symbio Wildlife Park
<https://symbiozoo.com.au>

01 | Wine ワイン

アルティメット・ワイナリー・
エクスペリエンス・オーストラリア



©Treasury Wine Estates

オーストラリアのワインは、年間約2500億円を輸出する一大産業。地域によって気候や降雨量が異なるため、生み出されるワインもバリエーション豊かだ。各ワイン産地では、生産者の話を聞いたり、セラーダアで各種ワインを試飲したりするのがおすすめ。併設のレストランでは、地元の食材で生み出される美食とのマリアージュを心行くまで楽しみたい。

南オーストラリア州

バロッサ・バレー

アデレードの北約70kmに位置する歴史あるワイン産地。名声の高さで知られるセント・ヒューゴや100年物のワインをリリースしているセッペルツフィールドなどが有名だ。

ビクトリア州

ヤラ・バレー

メルボルンの東、車で約1時間のワイン産地。なかでも貴腐ワイン「Noble One」で知られるデ・ボルトリが有名で、敷地内のレストランではイタリアンペースの料理も味わえる。



DISCOVER ABORIGINAL
EXPERIENCES

02 | Aboriginal Culture 先住民文化

ディスカバー・アボリジナル・
エクスペリエンス



©Tourism and Events Queensland

約6万年もの昔からこの地に暮らしてきたオーストラリアの先住民アボリジナルピープル。それぞれの土地から影響を受け、部族ごとに全く異なる言語や生活様式を築いてきた。アボリジナルガイドによるツアーに参加すれば、太古の壁画やアート、固有の動植物との関わり方などを知ることができ、興味深い文化や生き方を発見できるだろう。

ノーザンテリトリー

マルク・アーツ

世界遺産であり、アナンダ族の聖地でもあるウルル・カタジュタ国立公園。マルク・アーツでは、アナンダ族のアーティストからドットペインティングを習うことができる。

クイーンズランド州

レインフォレストेशन・ ネイチャー・パーク

世界遺産の熱帯雨林に位置するネイチャー・パーク。アボリジナルのガイドがブーメランや槍を使った狩猟方法を教えてくれたり、ダンスショーを見学したりすることができる。

SIGNATURE EXPERIENCES OF AUSTRALIA

シグネチャー・エクスペリエンス・オブ・オーストラリア



05 | Golf ゴルフ

グレート・ゴルフ・コース・
オブ・オーストラリア



©Gary Lisbon

オーストラリアの大自然に身を置き、大地の息吹を感じながらプレーするゴルフは最高のアクティビティ体験。この機会に世界的に有名な名門コースにチャレンジするのもいいだろう。もちろんカジュアルに楽しめるゴルフコースも多数あり、気軽にゴルフデビューするのもおすすめだ。意外にも都心からすぐにアクセスできるコースも多く点在している。

クイーンズランド州

ハミルトン・アイランド・ ゴルフ・クラブ

ハミルトン島の西側、デント島にあるチャンピオンシップコース。グレート・バリア・リーフの環境保全に配慮したデザインで、見渡す限りの美しい景観を堪能することができる。

ニュー・サウス・ウェールズ州

ニュー・サウス・ウェールズ・ ゴルフ・クラブ

シドニーからわずか17kmの距離にあるコース。海を見渡す立地や起伏のあるフェアウェイは世界第2位の絶景コースと言われ、雄大な自然を体感することができる。



06 | Wildlife 野生動物

オーストラリアン・
ワイルドライフ・ジャーニーズ



©John Daw

コアラやカンガルーはもちろん、クオッカ、ワラビー、ウォンバット、タスマニアン・デビル、ポッサム、カモノハシなど、オーストラリア固有の野生動物は多種多様だ。自然環境を守り、野生動物を保護しながら知識豊富なガイドと巡る生息地ツアーが多数催行されており、熱帯雨林や湿原、森、島、あるいは海の中で彼らに出会う特別な体験が待っている。

西オーストラリア州

エクスマウス・ダイブ& ホエールシャーク・ニンガルー

全長260kmに及ぶ世界最大級のサンゴ環礁、ニンガルーリーフは海洋生物の宝庫。なかでも、3月から7月にかけてはジンベイザメと一緒に泳ぐスイミングツアーが人気だ。

南オーストラリア州

エクセプションナル・カンガルー・ アイランド

アデレードの南西に位置するカンガルー島は、野生動物の宝庫。コアラやカンガルーだけでなく、絶滅危惧種のオーストラリアアシカに出会うこともできる。

03 | Art アート

カルチャー・アトラクションズ・
オブ・オーストラリア



オーストラリアが近代国家となった歴史的過程には、さまざまな文化やアートが関連している。流刑地だった頃の史跡やゴールドラッシュ時代のテーマパークを訪れば、タイムスリップしたかのような世界観に浸ることができるだろう。シドニー・オペラ・ハウスの建築美や7万点以上の作品を所蔵するビクトリア国立美術館など、ぜひ足を運んでみたい。

タスマニア州

ポート・アーサー・ヒストリック・サイト

タスマニアのホバートから車で約90分の施設で、初期の囚人たちの生活を垣間見ることができる。多くの建物が現存しているほか、鉱業、農業、林業などが行われていた痕跡も残る。

ビクトリア州

ソプリンヒル

メルボルンから約2時間でアクセスできるゴールドラッシュの時代を再現したテーマパーク。当時の衣装を着ての写真撮影や、砂金すくい、坑道ツアーなどが楽しめる。

04 | Walking ウォーキング

グレート・ウォークス・オブ・
オーストラリア



日本の約20倍という国土に大自然が広がるオーストラリア。自然の神秘や偉大さを肌で感じるなら、ウォーキング体験がおすすめだ。熱帯雨林や海岸線、丘陵、渓谷など、美しい絶景を満喫できるツアーに参加すれば、深い知識をもつ専門ガイドがその土地にまつわる物語を紹介してくれるだろう。ラグジュアリーなホテルでの特別な宿泊体験も外せない。

タスマニア州

クレイドル・マウンテン・ハッツ・ウォーク

世界遺産タスマニア原生地域に位置するクレイドル・マウンテンのコース。65kmを6日間で歩き、島最高峰のオッサ山登頂やセントクレア湖の船旅などが楽しめる。

ビクトリア州

12使途ロッジ・ウォーク

グレート・オーシャン・ロードの46kmを4日間で歩くコース。荘厳な岩の柱「12使途」や囚人を運んだ難破船、またフラビーやコアラ、オットセイなど固有の動物にも出会える。

オーストラリアならではの極上体験を厳選 8つのコレクション

オーストラリアには、訪れる人を魅了するさまざまな“体験”がここに散りばめられている。オーストラリアの土地やそこに暮らす人々と繋がることができる体験は、旅行者に唯一無二の時間を約束するだろう。ここでは、旅行者の旅心をくすぐる8つの体験コレクションを紹介する。



07 | Fishing フィッシング

グレート・フィッシング・アドベンチャー・
オブ・オーストラリア



オーストラリアをぐるりと囲む海岸線の長さは約6万kmで、その先には4000種もの海洋生物が生息している。世界でも有数のフィッシングスポットは、バラマンディやカジキマグロなどの大物だけでなく、湖や河川での淡水釣りやフライフィッシングも楽しめる。専門のオペレーターに任せ、雄大な大自然を舞台にエキサイティングな釣り体験に興じたい。

クイーンズランド州

グレート・バリア・リーフ

世界最大のサンゴ礁地帯では、ワイルドなフィッシングにトライしたい。バラマンディやシロカジキ、マレー・コッドなどの大物や淡水性のサラトガなどを釣り上げることができる。

ニュー・サウス・ウェールズ州

シドニー湾

オペラ・ハウスやハーバー・ブリッジのすぐ側で、カツオやサワラ、マグロ、オーストラリアサーモンなどが狙える。都会の街並みを眺めながらの釣り体験は、シドニーならではの。



08 | Luxury Lodge 宿泊施設

ラグジュアリー・ロッジ・
オブ・オーストラリア



オーストラリアには、ドラマチックな自然風景の中に建てられたラグジュアリーな宿泊施設が多数ある。サステナブルに設計された建物は、アウトバックや熱帯雨林、サンゴ礁に囲まれた海、見渡す限りのブドウ畑などが舞台だ。プロのガイドが案内するご当地ツアーや産地地消の美食＆ワインを味わうなど、唯一無二の忘れ難い宿泊体験に酔いたい。

ノーザンテリトリー

ロンギチュード 131°

砂漠に建つ16棟の豪華パビリオン。ダイナミックに変化するウルルを客室から見渡せるほか、星空の下でのディナーやガイド付きツアーなどで本物のアウトバックを体験できる。

西オーストラリア州

ケープ・ロッジ

プレミアムワイン産地、マーガレットリバーに位置するクラシカルな邸宅スタイルのロッジ。レストランの評価も高く、厳選されたワインと洗練された料理を楽しむことができる。



西オーストラリア州は、コロナ禍を通して衛生対策に成功させ、さらに成長に向けた手を緩めず都市の再開発や新たなインフラの整備を推進。サプライヤーも精力的にプロダクトを発表している。2022年後半には、ForbesとLonely Planetによる2023年お勧めの旅行先で相次いで上位に選ばれた。現地では、日本からの直行便の再開も見据えてお客様をお迎えする準備を整えている。



パース最新情報 インフラ整備や新プロダクトが続々！

新スポット「エリザベス・キー」など躍動するパースの現在

Redevelopment

再開発プロジェクト

州都パースではかねてから再開発が精力的に進められているところ。例えばスワンリバー沿いの**エリザベス・キー**は再開発で生まれ変わった新たな注目スポットで、注目のホテルが新規開業しているほか、6つのアーチが同心円状にのびやかに広がる巨大オブジェ、**スパンダ**が新たなシンボルとなり、また美しいS字の橋も完成しパースの街歩きをより便利かつ楽しいものにした。

また、パース駅北部のノースブリッジとパースを100年ぶりに繋いだ**ヤガン・スクエア**は、移民文化が特徴の繁華街である北側とビジネスの中心地である南側を融合。ちなみに、ヤガンはこの地を重要な拠点として暮らしたヌンガ族の英雄の名前だ。



高さ29mの巨大な波紋のオブジェ、スパンダはスワンリバーと大地と空をつなぐ存在

このほか、州立博物館**ブーラ・バルディップ**も大規模改装を経て2020年11月にノースブリッジのパース・カルチュラル・センター内にオープン。130年以上の歴史を持つ博物館で、名前は先住民アボリジナルの言葉で「たくさんのお話」の意。4.5万年にわたってこの地で生活を営んできたアボリジナルの人々の歴史と文化、野生動物、自然など多様なテーマを最新テクノロジーと革新的な展示方法で紹介する。



ブーラ・バルディップを象徴する巨大鯨の骨格標本

Public Transport 交通

交通インフラの充実も旅行者には嬉しいアップデートだ。直近の目玉は2022年10月にパース市内と空港を結ぶ**エアポートライン**の運行開始で、所要時間は約20分。料金は片道5豪ドル(約450円)、運行は午前6時頃から深夜0時頃まで、朝夕のピーク時が12分間隔、日中は15分間隔。深夜は30分間隔で、土日と祝祭日は運行時間が変わる。



©Public Transport Authority



©Public Transport Authority

一方、無料で乗車可能な**CATバス**の路線も拡充しさらに利便性が向上。2021年末に赤と青の路線に20以上の停留所が加わったほか、2022年2月には既存4ルートに加えて紫のルートが新設。エリザベス・キーを起点に南側へ向かうもので、キングス・パークへの移動が格段に便利になっている。

Hotel 宿泊

旅行先の受入体制で重要なのが質の高い宿泊施設のラインナップだが、パースはこの点でもさらに充実度が増した。

エリザベス・キーでは2019年11月に、記念すべきブランド100軒目となる**ザ・リッツ・カールトン・パース**が開業。5ツ星+の評価を得る最高級ホテルで、205の客室からの眺望は抜群。

さらに翌年12月には229室の**ダブルツリー・バイ・ヒルトン・パース・ウォーター・フロント**も。いずれもエリザベス・キーやスワンリバーを見渡す屋外インフィニティプールを備えるなど館内施設も自慢だ。



スワンリバーの美しい景観に浮かぶザ・リッツ・カールトン・パース

最高級ホテルは他にも。市内中心部にある、19世紀の政府庁舎だった歴史的建築物を改装したのは**コモ・ザ・トレジャリー**。アマンリゾートのデザイナーとして有名なケリーヒルが出身地パースで晩年に手掛けたホテルで、メインダイニング・**ワイルドフラワー**では先住民族の6つの季節に合わせて刷新されるコース料理を楽しめる。



小規模ホテルならではの行き届いたサービスが特徴

クラウン・パース・リゾートの最高級ホテルである**クラウン・タワーズ・パース**は大理石張りのロビーやプール、高級スパやブティック、ナイトクラブ、カジノ、劇場も備える充実ぶり。有料ラウンジの**クリスタル・クラブ**ではパース市内を一望でき、朝食、スナック、ドリンクのサービスも堪能できる。



全500室。オープンテラスも備えるクリスタル・クラブは15階に位置

Rottnest Island

ロットネスト島にも新プロダクト誕生



ディスクバリー・ロットネスト・アイランドのテント。大空とインド洋の深い青の景観を堪能できる

パースからフェリーで約1時間半、フリーマントルから約30分の「世界一幸せな動物」クオッカが暮らすロットネスト島でも宿泊の選択肢が増加。2019年開業の**ディスクバリー・ロットネスト・アイランド**は83棟のグランピングテントでサステナブルかつグラマラスな滞在が可能だ。

さらに2020年にはビーチに面したラグジュアリーブティックホテルの**サンファイア・ロットネスト**が開業。全80室がバルコニー付きで、ビーチクラブ、ラグーン風スイミングプールなどが大人気となっている。

Activity アクティビティ

旅行者にお勧めしたい現地アクティビティも百花繚乱だが、なかでもアドレナリンを愛してやまない旅行者は必見の体験が2件相次いで登場した。



2017年完成の新パース・スタジアム（オプタス・スタジアム）は世界で最も美しいスポーツ施設と栄誉ある評価を得ているが、2021年1月にスタジアムの屋根に上ることができる**ヘイロー・ルーフトップ・クライム**が誕生。パースの絶景を楽しむだけでなく、ハーネスを付けて屋根の側端から身を乗り出し写真撮影をしたり屋根の上から試合観戦したりする特別プランもある。

もう一つは、同スタジアムとパース市内を繋ぐ全長370mの歩道橋**マダガラップ・ブリッジ**が舞台。その名も**マダガラップ・ブリッジジップ+クライム**で、高さ72mのアーチの頂上に上れるだけでなくスワンリ

バーの上を400mにわたって滑り下りるジップラインも設置。最高時速はなんと75km！コロナ禍で溜まったストレスの解消に是非提案してほしい。

このほか、コロナ禍でアウトドアや自然のアクティビティも人気上昇中。スワンリバー上流のスワンバレーから河口部のフリーマントルまでの穴場スポットをカヤックや自転車で巡ったり、研究者が国立公園内の本格エコツアーを案内したり。オーストラリア最大の面積に雄大な大自然が残る西オーストラリア州ならではの体験が盛りだくさん。ワイナリー巡りやグルメツアーもお勧めだ。

西オーストラリア州政府観光局では、旅行会社の皆様にご使用いただける便利な資料や各種の情報をウェブ上で公開・発信している。

▶ https://linktr.ee/twa_japan



ビクトリア州の州都で、19世紀の面影を残した建造物と、近代的な建造物が融合した街並みが魅力のオーストラリア第2の都市。



別名「ガーデンシティ」とも呼ばれるほど緑豊かな公園が点在し、英誌「エコノミスト」の「世界で最も住みやすい都市」ランキングでは、2011年から2017年まで7年連続で1位に選ばれている。全豪オープンテニスをはじめ、競馬の祭典メルボルンカップや、F1グランプリなどのイベントも数多く開かれるほか、グレートオーシャンロードやペンギンパレードで有名なフィリップ島など、郊外の観光地も数多い。メルボルンの市内中心部は基盤の目のように道路が作られており、トラム（路面電車）は無料で乗車が可能。



ますます目が離せない！ メルボルン

01. 新しくオープンしたホテル

ヴォコ・メルボルンセントラル voco Melbourne Central

メルボルン中心部、ロンズデール通りにオープンしたお洒落なホテル。全252室の客室は落ち着いた紺色を基調としたクラシックなインテリアに、高速Wi-Fiやコーヒーマシンを完備。またテラスプール、モダンオーストラリア料理のレストランなどを併設し、都会にいなながらリゾートのようなゆったりとした滞在ができる。ショッピング通りやクイーンビクトリアマーケットに近く、メルボルン観光に適した最新ホテル。 www.ihg.com



モーベンピックホテルメルボルン Movenpick Hotel Melbourne

オーストラリア国内2番目のモーベンピックホテル。空港バスの停留所が隣接するメルボルンの主要駅「サザンクロス駅」前のロケーション。モダンな建物と洗練されたデザインが特徴。幅広い客層に適していて、モーベンピック特有のユニークなサービスも人気。毎日15時半～16時半は、モーベンピック・チョコレートを無料で体験できる「CHOCOLATE HOUR」、ファミリーには12歳以下の子供へアイスクリームのプレゼントなどがある。総室数172部屋。 www.movenpick.com



オークウッドプレミア・メルボルン Oakwood Premier Melbourne

メルボルンのサウスバンク地区に位置、2021年12月にオープンした40階建ての大変スタイリッシュな宿泊施設。132部屋のホテルルームと260部屋のアパートメントスタイルの部屋を持ち、短期の旅行から長期滞在まで対応。館内にはフィットネスジムをはじめ、滞在者のみが利用できる「レジデント・ラウンジ」を設ける。また最上階の「スカイバー」は、地上140メートルのフロアからメルボルンを360度見渡す景色が人気。 www.discoverasr.com



インターコンチネンタルホテル・ソレント InterContinental Hotel Sorrento

メルボルンから車で約90分、モーニントン半島内で最も人気のあるポートフィリップ湾に面した町ソレントにオープンしたリゾートスタイルのホテル。全108室の部屋は明るく大変スタイリッシュ。オーストラリアを代表するシェフ、スコットピケット氏のシグニチャーレストラン「オードリー」をはじめ、飲食サービスも充実。モーニントン半島観光の中心プロダクトとしておすすめ。 sorrento.intercontinental.com



02. イチ押しのアクティビティ

芸術の街メルボルンでストリートアートを探索しよう！

芸術の街メルボルンの魅力のひとつは、クールでカラフルなストリートアート。1970年頃から地元アーティスト達が描き始めて流行し、今では世界屈指のストリートアート都市として知られるように。有名なアート通りは市内中心部に多くあり、ウォーキングツアーで気軽に訪れることができる。ほとんどのアートは1日～数日後に上書きされるため、これらの作品に出会うのはとても貴重。そんな一期一会のアートとの出会いを是非体験してみよう？ whatson.melbourne.vic.gov.au/things-to-do/walks/street-art



世界遺産「王立博覧会場」のプロムナードがオープン

1880年、国内で初めて開催されたメルボルン万国博覧会のために建造された王立博覧会場（別名：ロイヤル・エキシビジョン・ビルディング）。2004年にはユネスコの世界文化遺産に指定され、今ではメルボルンを代表する観光プロダクトだ。これまで王立博覧会場は外観のみが主だったが、2022年10月29日より建物の象徴でもあるドーム周りのプロムナードへアクセスすることが約100年ぶりに可能に。この建物の歴史を解説した展示物と合わせて、長い期間観ることができなかった素晴らしい景観をぜひ楽しみたい。 museumsvictoria.com.au/reb



デジタルアート・ギャラリー 「THE LUME Melbourne」

2021年9月にメルボルン・コンベンション&エキシビションセンター(MCEC)内に新しくオープンしたデジタルアート・ギャラリー「THE LUME Melbourne」では現在、クロード・モネの作品を主体に展示中(展示期間は限定)。「Water Lillies (睡蓮)」など、モネの代表作を、デジタルアートを通して体感することができる。360度見渡せる鮮やかな色と幻想的な映像は必見だ。また、ギャラリー営業時間外はイベントスペースとして使用可能。デジタルプロジェクションをはじめ、最新の技術を駆使した演出でイベントを盛り上げる。 www.thelumemelbourne.com



世界遺産「バジ・ビム文化的景観」での ガイドツアーが開始

2019年にユネスコ世界文化遺産に登録された「バジ・ビム文化的景観」では、壮大な自然のなか、先住民アボリジナルの人々による世界で最も古い水産養殖を体験できる。最先端の水産養殖センターでは、先住民が何千年もの間実践してきた古代の淡水ウナギの養殖技術が活かされている。併設のカフェでは、伝統的な技術と味付けを使って調理されたウナギのテイस्टィング プレートを提供。2時間、半日、1日ツアーも行われる。 www.budjbim.com.au



モーニントン半島とベラリン半島を 結ぶシーロード・フェリー



ポートフィリップ湾を両腕を抱えるように延びるモーニントン半島とベラリン半島。その先端の街ソレントとクイーンズクリフを東西に繋ぐカーフェリー。モーニントン半島からベラリン半島を経由してグレートオーシャンロードへ行くこともできる。カーフェリーのため、車やバスの乗船もOK。乗船時間は約40分。 www.searoad.com.au

景色を楽しみながら 地元産の食材に舌鼓「Qトレイン」



Qトレインはメルボルンから車で約1時間、ワイナリーと自然が豊かなベラリン半島内、ドライブスルーとクイーンズクリフ間を走るレストラン列車。地元産の食材から作られた料理とワインに舌鼓みを打ちながら、往復約3時間の鉄道の旅を楽しめる。ここからグレートオーシャンロードやモーニントン半島へもアクセスが可能なので、グルメ体験と合わせて自然や野生動物との組み合わせもできる。 www.theqtrain.com.au

熱気球から メルボルンの絶景を鑑賞



グローバル・バルーンングは、ビクトリア州最大の熱気球ツアーオペレーター。メルボルン市街とヤラバレー上空を遊覧する2種類のツアーを提供している。夜が明けるのに合わせて出発準備し、世界でも有数の美しさを誇るメルボルンの上空を浮かびながら、朝日が昇るのを眺める。ヤラバレーではぶどう畑や高原の上空を浮かびながら雄大な自然と絶景を楽しむ。朝食付きオプションでは、熱気球の後、市内ホテル、またはワイナリーでの朝食が含まれる。 www.globalballooning.com.au

03. 今後注目の国立公園

グランピアンズ国立公園 Grampians National Park

メルボルンから約300km離れた美しい山岳丘陵地帯にある州最大の国立公園。太古の昔から変わらぬ原生風景が広がり、900種類以上のワイルドフラワーが咲き乱れ、野生動物が生息する。ザ・バルコニーやマッケンジー滝などの名所では、切り立った崖壁や迫力ある岩肌、荘厳な滝などの自然造形物が魅力。雄大な大自然を満喫できるハイキングも人気だ。他にもトレッキングやロッククライミング、バードウォッチングなど、さまざまなアウトドア・アクティビティが楽しめる。また先住民の聖地でもあり、ロックアートなども点在するので、大自然と絶景だけでなく、文化に触れることもできる。 www.visitgrampians.com.au



ウィルソンズプロモントリー国立公園 Wilsons Promontory National Park

プロモントリーは「海に突き出た岬」という意味。岬の先端は、オーストラリア大陸(本土)最南端。海を望む絶景と豊かな森など、素晴らしい自然と景観を誇る。オープンフォレスト(雑木林)や多雨林の森、花崗岩の山があり、美しいビーチや海岸線が続く。ウォンバットやカンガルー、エミューなど、野生動物の宝庫で、驚くほど近くで遭遇することができる。公園内には、網の目のように張り巡らされた遊歩道がいくつもあり、トレッキングやハイキングがおすす。1時間以内の短距離コースから、3日間以上かけて歩くコースまで、自分のレベルに合わせて楽しめる。 www.parks.vic.gov.au



市内のウォーキングマップやガイドブック、カフェガイドなど、ビクトリア州政府観光局ではメルボルン旅行に欠かせない資料を配布しています。



ビクトリア州政府観光局 担当:高森
公式ホームページ jp.visitmelbourne.com
お問い合わせ japan@visitvictoria.com.au

ノーザンテリトリー観光局 CEO
スコット・ロベット
Scott Lovett,
CEO Tourism Northern Territory



ご挨拶

2022年10月11日から日本での渡航措置が大幅に緩和され、制限なく海外旅行ができるようになったというニュースを聞いて大変うれしく思います。2019年、オーストラリアのノーザンテリトリーは、世界のどの国からの旅行者よりも多い日本人観光客を迎えました。今回の渡航規制緩和のニュースをきっかけに、またすぐに多くの日本人旅行者をお迎えできることを楽しみにしています。新型コロナウイルスの世界的な大流行により、旅行業界は大きな変化を余儀なくされましたが、そうした状況の中でも、カカドゥ国立公園の開発やアリス・スプリングスのインフォメーションセンターやナショナルアポリジナルアートギャラリーなど、複数の将来に向けた新プロジェクトに対する投資を積極的に行ってきました。私たちはオーストラリアのノーザンテリトリーに皆様を再びお迎えできることを楽しみにしています。



©Tourism NT /Helen Orr



違いを求める旅行者に 魅力的なアクティビティを提供 2年半の先行投資が観光再開で開花へ

2019年には日本からも数多くの観光客が集まったノーザンテリトリー。登頂以外のウルルの多様な楽しみ方も日本市場に浸透しつつあったが、残念ながらその後のコロナ禍によって観光はいったん停止。しかしこの約2年半に積極的な先行投資を続けてきたノーザンテリトリーでは、新

たなアクティビティが観光コンテンツに加わり、より強力なデスティネーションとして進化した。日本市場でも「違いを求めて」をスローガンに、ここでしか体験できない、地球上の他のどこにもないノーザンテリトリーの魅力を紹介するプロモーションが始まっている。

#Top End トップエンド

カカドゥ国立公園

カカドゥ国立公園遊覧飛行と ツアーパッケージ

オーストラリアに4つある世界複合遺産のひとつでオーストラリア最大の国立公園としても知られるカカドゥ国立公園。その広大な敷を上空から鑑賞できる豪華体験がこれ！特に敷地面積の約3分の1が水没し地上からのアクセスが閉ざされる熱帯地方特有の夏のシーズンにはお勧めだ。カカドゥ・エアは同国立公園の遊覧飛行とツアーパッケージで効率的に体験できるツアーを催行。顧客の予算に応じて、ジャビルーとクーイングダから毎日出発する短時間のツアーからダーウィン発の日帰りツアーまで、様々なツアーを364日用意している。



©Tourism NT/Peter Eve

乾季限定のサンセット・スペクタキュラーでは、オレンジ、ピンク、赤の色彩豊かな景色に魅了され、滝の水の水量が増える季節に催行されるフォールズ・フライトでは滝の迫力に圧倒されることでしょう。ダーウィンからのツアーは、遊覧飛行、ランチ、クルーズを含むオールラウンドな体験となる。すべての遊覧飛行とツアーには、カカドゥ国立公園の専門家による音声ガイドとライブ解説が含まれており、窓際の席が保証される。

<https://www.kakaduar.com.au/>

ダーウィン

ミンディルビーチサンセットマーケット

ティモール海に沈む美しい夕日で有名なミンディル・ビーチ沿いで、4月下旬から10月下旬（乾季）にかけて毎週木曜日と日曜日に開催されるこのマーケットはダーウィン最大。かつ、この街の多文化性を象徴するイベントだ。東南アジアのナイトマーケットを手本に1987年にスタート。ローカルフードや世界各国の料理を提供する屋台から、アート作品や工芸品まで、200以上の出店者が軒を連ね、地元のミュージシャンやダンサーなど、さまざまなジャンルのパフォーマンスも楽しめる。空一面を真っ赤に覆う美しい夕日を背景に、バラエティー豊かな料理と芸術、文化体験はここならではの体験だ。カップルから友人同士、家族連れまで、心に残る旅の思い出の1ページになること間違えなし。

<https://mindil.com.au/>

サンセットディナークルーズ

カタマラン船（双胴船）、チャールズ・ダーウィン号に乗り美しいダーウィンの夕陽と食事を楽しむダーウィンハーバークルーズ。最上階のサンデッキでは、ティモール海の風に吹かれリゾート気分を満喫できる。船内ではスナック、大皿料理、飲み物を購入できる他、ブリッジデッキでドリンクを片手にくつろぐことも可能。近代的で快適な設備を備えたチャールズ・ダーウィン号と、2本マストの美しい帆船を復元したタムラレン号は、どちらもプライベートチャーターが可能で結婚式やイベントなど、特別なシーンにも利用できる。

<https://northernterritory.com/jp/ja/tours/darwin-harbour-cruises>

00Seven Jet Ski Adventures

ガイド付きのジェットスキー・ツアーも参加すれば、美しいビーチの散歩だけでなく、海洋生物と出会い、この海の歴史に関するガイドの話に耳を傾けながら、第二次世界大戦の難破船の上を漂ったり、ひとけのない砂州でのんびりと過ごしたり、思い思いの時間を体験できる。ガイド付きツアーは、45分から90分まで様々な時間とコースを用意。一人で乗るのは心配という参加者はガイドの後ろに乗ってスリルを味わうことも可能。ノーザンテリトリーの典型的ローカルライフを体験しつつ、楽しみながらダーウィンの歴史を学べるのがツアーの特徴だ。



©Tourism NT

<https://www.00seven.com.au/>



©Tourism NT/Matt Cherrubino



©Tourism NT/Mark Fitz



©Tourism NT/Jack and Megan

#Red Centre レッドセンター

ウルル

ウルルサンライズ&セグウェイツアー

ホテルから夜明け前の光の中をバスで移動して、ウルルの麓で幻想的な日の出とピクニック形式の朝食を楽しみ、セグウェイでガイドと一緒にウルルの麓を一周する。写真を撮影しながらウルルの絶景に感嘆するだけでなくアボリジニの文化を学ぶこのツアーの最後には、徒歩でムティジュル・ウォーターホールに行き、この土地を代々守り続けてきたオーナーたちが残した神秘的なロックアートも鑑賞できる。所要時間約5時間のツアーでヴォヤージュエアーズロックリゾートからの送迎、日の出観賞、朝食、セグウェイトレッキング、ガイド付きツアー、ムティジュル・ウォーターホール観光が含まれる。



©Uluru Segway Tours

<https://northernterritory.com/jp/ja/tours/uluru-segway-tours/uluru-sunrise--segway>

フィールド・オブ・ライツ



©Tourism NT / Tourism Australia

ウルルを背景に夕日がゆっくりと沈んでいく幻想的な風景を眺め、ディジュリドゥの音色をBGMに冷えたスパークリングワインを片手にカナッペが楽しめる。夕闇が迫り、5万個のガラスの球体に明かりが灯れば、プッシュボタンにヒントを得た3コースのブッフェ・ディナーが始まる。食後はこの巨大なインスタレーションの背景についてガイドの説明を受けながらフィールド・オブ・ライトの中を歩き、砂丘の展望エリアへ。暗闇の中でイルミネーションを眺めながらスイーツやホットチョコレート、ポートワインを堪能できる。

<https://northernterritory.com/jp/ja/tours/field-of-light-tours>

ウルルキャメルツアー

どこまでも続く赤い砂の上をラクダの背に乗り散策し、ウルルやカタ・ジュタが時間と共に夕日に照らされその姿を変化させる様子を体感できる1時間ほどのツアー。散策中は、熟練ガイドがアウトバックに生息する動植物についての説明をしてくれる。日没と共に農場に戻り、焼きたてのピア・ブレッド・ダンパーや各種ドリンク、アウトバック・プッシュ・フードを味わおう！エアーズロックリゾート発着の送迎付きツアーのため誰でも安心して参加できる。



©Tourism NT

<https://www.ayersrockresort.com.au/experiences/camel-to-sunset>

アリス・スプリングス

カンガルーサンクチュアリ ガイド付きサンセットツアー

アリス・スプリングス郊外のカンガルー保護区はカンガルー・ダンディ (BBCのドキュメンタリー) でおなじみのプロルガとタニーのカンガルー一家の故郷。ガイド付きサンセットツアーでは、広大な野生動物保護区をのんびりと歩き、保護されたカンガルーの赤ちゃんなど多くの動物に出会える可能性も。ガイドツアーはカンガルーが眠りから覚める午後の遅い時間にスタート。ツアーは約2.5~3時間で、事前予約が必要。宿泊先から保護区までは最寄りのピックアップポイントからのバス送迎あり。

<https://northernterritory.com/jp/ja/tours/the-kangaroo-sanctuary-alice-springs>

アウトバックバルーンング



©Tourism NT

赤土の砂漠の上空をゆっくりと風に乗って移動する気球飛行はこの場所ならではの冒険心をくすぐる体験。2~4人乗りから最大24人乗りまで予約人数に応じてアレンジ可能なアウトバックバルーンングはほぼ毎日(悪天候時は中止)運航している。

また、夜明け前に上空へと旅立ち、壮大なマクドネル山脈が赤く染まってく美しい風景を独り占めしたければプライベートチャーターも可能。ロマンチックな体験を望むハネムーンに最適。飛行中は高い確率で、レッドカンガルーなどの野生動物を上空から観察できる他、飛行後は、大自然の中でスパークリングワインなどを片手に、マフィン、バナナブレッド、チーズなどの軽食を楽しめる。料金には宿泊ホテルからの往復送迎も含む。

<https://northernterritory.com/jp/ja/tours/outback-ballooning>

Ayeye Atyenhe Art

先住民族と非先住民族のパートナーシップにより運営され、ノーザン Territoryを拠点とするアボリジニアートイストの作品を販売するギャラリー。アーティストの自立を直接的に支援している他、売上の一部を先住民族の基金に寄付し生活困窮者を支援している。店名の"ayeye atyenhe" (発音はa-year a-chin) は東アレンテ語で「My Story Art(私の物語)」の意味。アボリジニアートイストが、伝統的形式と現代的スタイルをミックスして、あなたのストーリーをキャンバスに描くユニークな機会も提供。



アボリジニ文化では人間関係が重要であり、その人が誰であるかを理解するには、人と人、人と土地のつながりを理解し感謝する必要があるという。アートはこれら物語を語り記録し保存するための表現なのだ。

Ayeye Atyenhe Artではアート作品を通して先住民に対する認識と評価を高めていくと共に、彼らがより理解され、尊重されることをビジョンとして活動を行っている。

<https://www.ayeyeatyenheart.com.au/events/>



羽田-ブリスベン線

12月1日より週3便で就航!



カンタス航空は、2022年12月1日より羽田-ブリスベン線を就航する。

待ちに待ったオーストラリア旅行には、乗った時からオーストラリア気分になれるカンタス航空がおすすめだ。

Schedule

ノンストップでブリスベン 羽田発でより便利に

カンタス航空の羽田-ブリスベン線は、以前の成田発着のフライトを、都心からのアクセスが便利な羽田発着にシフトしたもので、より利便性が向上する。

これによりカンタス航空の日本路線は、毎日1便の羽田-シドニー線に、週3便の羽田-ブリスベン線が加わり、ますます便利となる。

Network

シドニー、ブリスベンからオーストラリア国内へ 充実のネットワーク

カンタス航空は、オーストラリアの航空会社として、オーストラリア国内線の充実したネットワークを誇る。シドニーから、またはブリスベンから、オーストラリア各地へスムーズにアクセス可能。さらにシドニー、ブリスベン共に朝に到着するので、乗り継ぎ便も豊富にあるのが大きな強みだ。

一方、羽田発着のフライトなので、アライアンスパートナーの日本航空の国内線を使って、日本各地から乗り継げる点も便利だ。

カンタス航空日本路線 (2022年12月1日から2023年3月25日まで)

羽田-ブリスベン線 **New!**

便名	スケジュール	機材	月	火	水	木	金	土	日
QF62 羽田 → ブリスベン	21:30 / 07:35 +1	A330							
QF61 ブリスベン → 羽田	11:50 / 20:00	A330							

羽田-シドニー線

便名	スケジュール	機材	月	火	水	木	金	土	日
QF26 羽田 → シドニー	22:00 / 09:50 +1	A330							
QF25 シドニー → 羽田	21:35 / 05:25 +1	A330							
QF25 シドニー → 羽田	22:10 / 06:00 +1	A330							

※ +1: 翌日着 ※スケジュール、機材は予告なく変更になる場合があります。

Economy Class

快適な座席でゆったりとくつろげる

エコノミークラス

人間工学に基づいて設計されたスリムシートには、調節可能なウイングのついたヘッドレストと、座席部には腰サポートが埋め込まれているので、身体をしっかりとサポート、機内でゆったりとくつろぐことができる。

またビジネスクラス同様、PC電源とUSBポートを完備。各席のタッチパネル式モニターでは、豊富なエンターテインメント（映画・TVショー・音楽など）を楽しめる。さらに3種類から選べる機内食はボリュームがあり、好評だ。



Business Class

離陸から着陸までリクライニングが可能

ビジネスクラス

カンタス航空の羽田ーシドニー線、および羽田ーブリスベン線の使用機材はA330型機。ビジネスクラスの座席は、ビジネススイートとして、全席通路に面した開放感のある空間が特徴。離陸から着陸まで、専用のマットレスを付けたまま、フルフラットベッドでのリクライニングが可能。夜間のフライトの貴重な睡眠時間を確保できるのがうれしい。座席にはPC電源とUSBポートを完備する。

ビジネスクラス専用の客室乗務員によるサービスも充実。収納可能なタッチパネル式モニターで、豊富なエンターテインメント（映画、TV番組、音楽など）を、周辺の音を軽減する機能付きのヘッドフォンで楽しめる。

また、コットン100%のパジャマやアメニティキットを用意。アメニティキットには、竹の歯ブラシや、リサイクルプラスチックを使用したチューブやボトルを採用するなど、廃棄物削減、サステナブルを意識したアイテムが入っている。オーストラリアで人気のレストラン「ロックプール」がプロデュースした機内食もぜひ味わいたい。



Service

カンタス航空の運賃は燃油サーチャージ込み* 受託手荷物30kgまで無料、安心、快適なサービス

カンタス航空の運賃はすべて燃油サーチャージ込み*。またすべてのフライトで受託手荷物が運賃に含まれており、日本発オーストラリア行き航空券については、個数制限なしで総重量30kg（ビジネスクラスは40kg）まで無料だ。

カンタス航空にとって、お客様の安全と健康は最優先事項。非接触型チェックインやセルフサービスの手荷物預け入れ、手指消毒ステーション、マスクとウェットティッシュの入った「Fly Well」パックの配布など、適切な対策を行っている。

*諸税、諸手数料が別途かかります。



安心、快適なサービスを提供（イメージ）



カンタス航空

12月1日より羽田ーブリスベン線、運航開始！

カンタス航空は2022年12月1日より、羽田ーブリスベン週3便*の運航を開始いたします。

羽田ーシドニー便も毎日運航し、オーストラリアへの空の旅がますます便利に！

*羽田発・ブリスベン発共に、月曜・木曜・土曜。

詳しくは qantas.com または旅行会社へ



※スケジュールは予告なく変更になる場合があります。
ご予約およびご旅行前に最新の渡航要件をご確認ください。